



県内に比較的多く生息する。口が下方方向に伸び砂ごと吸い込むようにエサを獲る。全長：約12cm

コイ科 カマツカ属

【全長】25cm

カマツカ

学名：*Pseudogobio esocinus*

分布域

富山・静岡県以西の本州と四国・九州に分布する。

生息域

河川の中流～下流域の砂礫底を好む。



底層を中心に生活する。福井市産

馬面でハゼ科の仲間を思わせる。眼は高い位置にあり、口は吻端にあり下向きに開く。口髭は一对。体色は黄褐色で側面や背面に黒色斑がモザイク状に散在する。腹部は淡褐色。動きは俊敏で、驚くと一瞬で砂の中に潜って眼だけ出している。食性は雑食性で川底の砂ごと吸い込み鰓で餌(底生動物や付着藻類・デトリタスなど)だけ選り分けて食べる。産卵期は5～7月で、沈性の粘着卵を砂礫底にばらまく様に産む。

水槽での飼育は可能。比較的神経質で慣れるまで静かな環境で飼育し、夏期の水温上昇に気を付けたい。餌は沈下性の配合飼料に慣れ、ユーモラスな摂食行動が見られる。多種との混泳にも問題ない。

在来種

純淡水魚

※最近の遺伝子研究によって、国内のカマツカには3つのグループの存在が知られていた。それぞれが新種の2種を含む3種に分けられた。まだまだ分かっていないことも多く、今後の研究の進歩に期待する。